

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	Tissue Microarray を用いた大腸癌における ALK 遺伝子変異の解析
	研究目的	<p>大腸癌において、様々な遺伝子異常を持つ癌の存在が以前より増して明らかになってきており、ALK (anaplastic lymphoma kinase) 融合遺伝子もその一つである。</p> <p>大腸癌においては、これまで海外からの発表で ALK の遺伝子変異は 0.2-2.5%の頻度と報告されているが、本邦では、まだ報告は無い。</p> <p>われわれは、大腸癌においても非小細胞肺癌と同様に印環細胞と ALK 変異に関係がある可能性を考え、研究を行うと高い頻度で ALK 陽性大腸癌が認められた。</p> <p>今回、より多くの大腸癌の症例を研究するために Tissue Microarray (TMA) を作成し、ALK 陽性大腸癌の臨床病理学的特徴および生存、再発、抗癌剤感受性について明らかにする</p>
	研究対象者	2004 年 1 月から 2019 年 12 月に当センター消化器外科にて大腸癌の治療を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2020 年 6 月 24 日～西暦 2025 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・ <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪(便) <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター研 究責任者	塩澤 学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科大腸、病理診断科、がんゲノム診療科、臨床研究所
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし